

会員の皆様、こんにちは。

日本の少子化は人口減少を招来することは周知の事実です。しかし、世界を見渡すと人口は増えており、近い将来食料不足に見舞われるという推計があります。日本人の胃袋を満たすための農林水産業にもっと目を向けていく必要があるのではないのでしょうか。農山漁村を活性化する農水省の取組みについて、識者からご寄稿いただきました。ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

## 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

### ■食料不足に向かう世界

現代日本では、贅沢を言わなければたいてい食に困ることはないだろう。スーパーマーケットには食材が豊富に並べられ、外食産業も栄枯盛衰はあるにせよ大手チェーン店から老舗の地元定食屋までさまざまなジャンルの店がある。しかし、研究者の将来予測によれば、地球は大きな流れでは寒冷化による食料不足に向かっているという。それに追い打ちをかけているのが全世界的な人口増である。

日本の中だけで生活していると、少子化によるダウンサイジングに目が行ってしまいが、世界に目を向けると人口は爆発的に増えているのだ。

今こそ、近未来を見据えて農林水産業に注目していただきたい。

### ■農山漁村の好事例に光を当てる

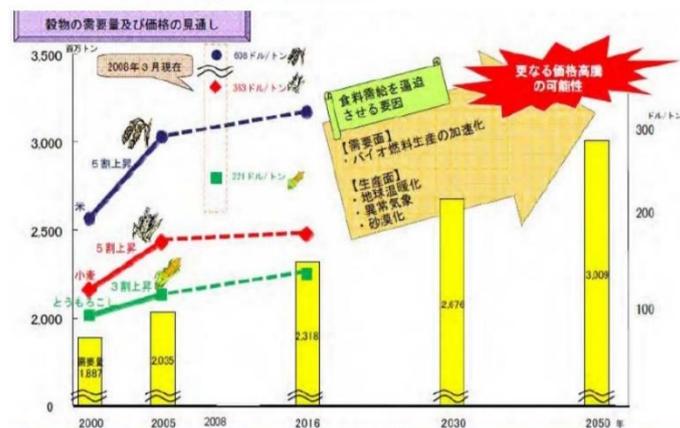
内閣府の発表によれば、2050年、食料需給はひっ迫する。世界の人口が増えることに加え、従来貧困層と言われていた人々が中間層にレベルアップし、購買

力が上がることによって食料の需要が急増するからである。

翻って、2050年には、日本の国土の60%が無人的になるという予測もある。人手がかからず AI やロボットを活用する「スマート農業」に熱い視線が注がれる所以である。

農林水産省では、農林水産業の好事例を全国に発信し、更なる活性化を促すため、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」という賞を設け、5年前から表彰している。今年も、10月に、全国から32地区の農山漁村活性化の優良事例を選定

### 今後の食糧需給の見通し



した。

農水省のホームページによれば、この賞の役割は「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信すること」にある。

さらに、11月22日にはこの32地区の中から、グランプリと特別賞が選定された。

### ■知恵と工夫とみんなの協働で

グランプリは、栃木県茂木町にある「株式会社もてぎプラザ」だ。ゆずの加工品や、町内産米粉と地元産たまごを使用したバウムクーヘンを開発し地産地消に貢献したことが評価された。地産地消のバウムクーヘンは評判を呼び、販売が伸びたことから、当初4名だった雇用者数が34名に増加し地域雇用の創出にも貢献したのである。ポイントは六次産業化だ。生産者と、

加工者と販売者が協力し合って地域の活性化に取り組んだことが成功の要因だろう。

フレンドシップ賞は、北海道の「株式会社いただきますカンパニー」。見渡す限りの小麦畑が、地元で農業者にとっては当たり前の光景だったが、ガイドと一緒に畑を歩き、そこで採れたものを食べる体験「畑ガイドと行く農場ピクニック」という視点を得たことで、ツアー客が増加。地域の子どもたちに農業を伝えるため、農協やメーカーと協働で学校へも無料で出前訪問を実施したことも評価された。こうしてみると、日本の農業もまだまだ伸びる余地や産業としてのすそ野を広げる余地はあるのだ。知恵と工夫とみんなの協働。

ものづくり大国を自負する日本であればこそ、農林水産業における創意工夫が未来を拓くと思われる。

ペンネーム：農村のトラクター



このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。ご意見は info@masahiro-ishida.jp までお寄せください。

【配信停止・設定変更】本メールサービスの解除を希望する方は、石田まさひろ政策研究会までご連絡ください。

【配信元】石田まさひろ政策研究会 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-1-1

Copyright© Masahiro ISHIDA all Rights Reserved ---掲載記事の無断転載を禁じます---